

ホセア書 1 章 1 節から 2 章 1 節 反逆の描写

今日からホセア書を始めます。旧約聖書の預言書から礼拝説教を語る。わたしが YIBC に着任してから初めての事です。この機会をととても楽しみにしています。そもそも、預言書を学ぶことがどうして重要なのか。わたしは、このことを考えてみてもよいと思います。ホセアは 1 人の預言者です。彼は、イエス・キリストが誕生する以前、北イスラエル王国と南ユダ王国に語りかけました。でも、ホセアが現代のクリスチャンや教会にも適用されることを語るのだろうか。そう思う方もいらっしゃるかもしれませんが。預言書は教会にとって重要なのです。預言には、現代のわたしたちにも適用される重要な特徴がいくつかあります。第一の特徴はこれです。預言が成就したという場合、その成就是複合的な視野から見るべきだ、ということです。このことは何を意味するのでしょうか？北イスラエル王国と南ユダ王国はアッシリアとバビロニアに滅ぼされました。このことは事実です。つまり、預言の成就に近いことが起こった、ということになります。預言のほとんどは過去に成就した。ところが、その同じ預言はイエス・キリストの到来、さらにはその死と復活をも預言している。このことが預言の特徴です。つまり、キリストが再臨しなければ成就しない未来の預言もある訳です。わたしたちは、キリストの死と復活、そして、キリストの再臨、これら 2 つの出来事の間生きています。キリスト誕生以前において、イスラエルの民は救い主メシアの到来を待ち望んで生きていました。つまり、イスラエルの民とわたしたちとは、主を待ち望む状況としては同じなのです。今日の教会は神の民と言えます。ですから、神の民に適用される旧約聖書は、教会にも適用されるのです。旧約時代の神の民はキリストの誕生を待ち望んでいました。わたしたちは、イエス・キリストの再臨を待ち望んでいます。

預言的な文学で用いられる言葉。これにも重要な意味があります。預言書には非常に説明的で詩的な表現が多い。このことが預言書を理解することを難しくさせます。しかし、実際に読んでみると、その表現には美しさがあるのです。新約聖書は非常に詳細な書簡の形で神学的真理を教えてください。ローマ人への手紙はその例です。預言書は、その同じ神学的真理を、神ご自身がご自分の御心を神ご自身の言葉で語る形で、教えてください。預言書とはまるでラブレターだ。つまり、神の民をご自分のもとに呼び戻そうとするために、神から神の民へ送られたラブレターなのだ、と考えることもできないでしょうか。以上、預言書における特徴を見てきました。わたしたちがここで学ぼうとしているホセア書では、以上見てきた預言書の特徴が、特に顕著に見られます。ホセア書のテーマはこれです。イスラエルの罪は深刻である。民が悔い改めなければ確実に罰を受ける。イスラエルの民は、神によってエジプトから救い出してもらい、神から自分たちの土地を与えてもらいました。しかし、ほとんどの場合、彼らは真心から神を礼拝することを拒否しました。神に対して背信したのです。神は、この背信の民を滅ぼすことはしなかった。神は、ホセアや他の預言者たちをとおして彼らに語られました。そして神は、彼らが悔い改めて神に立ち返ることを真実に願われたのです。神は、ご自分の民に対して不変の愛を示されたのです。神のこの揺るぎない不変の愛はヘブライ語で HESED (ヘセド) と言います。この言葉は旧約聖書における重要なキーワードです。ホセア書の中に要所要所で 6 回登場します。そこで、わたしはこのホセア書の説教シリーズのテーマを "背信の民への神の不変の愛" とすることにしました。

それでは、**ホセア書 1 章の 1 節**から始めましょう。**1 ユダの王ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代、イスラエルの王、ヨアシュの子ヤロブアムの時代に、ベエリの子ホセアにあった主のことば**。ホセアという人物については、あまり多くのことは分かりません。ホセアの父親はベエリである。わたしたちにはこれしか分かりません。それ以外の背景については、ホセア書から知り得るだけです。ホセアが神の言葉を宣べ伝えた正確な期間については諸説あります。少なくとも前 753 年から前 715 年までの長期間であった。これが一般的な理解です。1 章の最初の節には王たちの名前が列挙されています。この名前から、ホセアが預言活動をしていた時期が大体分かります。イスラエル王国はサウル王のもとで始まりました。しかし、王国はサウル王から奪われて、ダビデに与えられました。このことを思い出して下さい。ダビデの子孫から、ダビデや他の聖なる王たちをとおして描かれてきた完璧な王の形として、イエスが生まれることになります。イスラエルが統一王国となった時、この統一王国と国家は、ダビデの息子ソロモンの時までしか続きませんでした。ソロモンの後、イスラエルは南ユダ王国と北イスラエル王国に分割されました。南ユダ王国はユダとベニヤミンのユ

ダヤ人部族だけで構成されました。北イスラエル王国はイスラエルの残りのすべての部族で構成されました。

南ユダ王国には聖なる王が何人かいました。彼らは、ソロモンが建てたエルサレムの神殿で真の神を礼拝するように国民を導いたのです。しかし、北イスラエル王国には、このような聖なる王は一人もいませんでした。そして、ホセアが預言活動をしていた時代が終わりを迎える頃、前 720 年頃に北イスラエル王国はアッシリア帝国に滅ぼされました。南ユダ王国は、前 586 年にバビロニア帝国に滅ぼされるまで存続しました。**スクリーン**には、北イスラエル王国と南ユダ王国の王のリストを示しました。皆さんには文字が小さすぎて恐縮です。**次のスライドです**。ここには、最初に示したリストの中から、ホセアが預言した期間に統治していた王たちだけを抜き出しました。北イスラエル王国には、2 代目ヤロブアム王以外に、30 年間で 6 名の王が統治しました。ところが、彼らの名前は挙げられていません。なぜ北イスラエル王国ではすべての王の名前が挙げられていないのか。なぜ南ユダ王国ではすべての王の名前が挙げられているのか。この理由はハッキリ分かりません。北イスラエル王国の王たちは民を神への反逆に導きました。たぶん、これらの王たちは民の罪を象徴していた、ということでしょう。ホセア書は、南ユダ王国に対する裁きも含まれていましたが、おもに北イスラエル王国に対する預言でした。いずれにせよ、当時の王たちに関する情報から、両国で何が起こっていたかが示唆されます。南ユダ王国には良い王がいました。ここに挙げられているウジヤ、ヨタム、ヒゼキヤなどです。しかし、北イスラエル王国でも南ユダ王国でも、人々は偶像礼拝に身をゆだねていました。神の目に人々の罪がどのように映っているのか。ホセアをとおして神は語ります。

2 節になると、神は生々しい言葉で語ります。**2 主がホセアに語られたことのはじめ。主はホセアに言われた。「行って、姦淫の女と姦淫の子らを引き取れ。この国は主に背を向け、淫行にふけているからだ。」** 3 **彼は行って、ディブライムの娘ゴメルを妻とした。彼女は身ごもって、彼に男の子を産んだ。**ここではっきりさせておきます。神の言葉遣いは丁寧ではありません。わたしたちは皆、自分の子供にはこのような言い方をしないようにします。ところが、神の目に民の罪があまりにひどい。だから、神ご自身がこのような言い方をするのです。神は、ただホセアに預言の言葉を与えて語られただけではなかった。神は、ホセア自身に結婚を命じ、彼の家族をとおして民に伝えたい、聖なる神に対する民の反逆がどれほど酷いものであるか民に伝えたい、と願っておられるのです。2 節から 3 節を読むと、姦淫の女ゴメルから生まれてくる子供たちは、実はホセアの子供ではないかもしれない、ということが示唆されます。4 節を読みましょう。ゴメルから生まれた残りの子供たちについて分かります。4 **主は彼に言われた。「その子をイズレエルと名づけよ。しばらくすれば、わたしがイズレエルでの流血のゆえにエフーの家を罰し、イスラエルの家の王国を終わらせるからだ。5 その日、わたしはイズレエルの平原で、イスラエルの弓を折る。」** // 6 **ゴメルはまた身ごもって、女の子を産んだ。主は彼に言われた。「その子をロ・ルハマと名づけよ。わたしはもう二度とイスラエルの家をあわれむことはなく、決して彼らを赦さないからだ。7 しかし、わたしはユダの家をあわれみ、彼らの神、主として、彼らを救う。ただし、弓、剣、戦い、あるいは馬、騎兵によって救うのではない。」** // 8 **彼女はロ・ルハマを乳離れさせると、身ごもって男の子を産んだ。9 主は言われた。「その子をロ・アンミと名づけよ。あなたがたはわたしの民ではなく、わたしはあなたがたの神ではないからだ。」**

こんな変な名前を子供につけるのでしょうか！ここにおられる親御さんは、こんな名前をお子さんに付けたくないでしょうし、ここにおられるお子さんだって、親からこんな名前を付けられたくもないでしょう！しかしながら、神には意図があるのです。まず、この子供たちはホセアの実の子供ではないようです。こんな解釈もあります。つまり、神がホセアに売春婦と結婚するように指示したとは考えにくい。ホセアは結婚当初から、彼女が不貞を働くことを知っていた。生まれてくる子供たちが実子でないことも知っていた、と。しかし、ホセアは彼らを自分の子だと主張したのです。そして、神の指示通りの名前を子供たちにつけました。それぞれの子供の名前は、神に反抗して生きている民に対する神の心境の異なる側面を示していました。長男として生まれた子の名前はイズレエルでした。この名前は、エフー王に対する直接的な預言の言葉でした。しかし、この名前の預言が、北イスラエル王国全体にまで拡大しました。今日は、そのことを詳しく見る時間はありません。エフーが王位に就いた経緯については列王記下 9 章と 10 章に書かれています。エフー王は、アハブ王の孫でした。

彼は神の目から見て最悪の王であったヨラム王を殺しました。神は、エフー王を用いてアハブの一族を滅ぼし、その血統を完全に絶やされました。神はエフー王が従順に成し遂げたことを称賛さえしました。しかし、彼はそれ以上に、アハブの肉親だけでなく、はるかに多くの人々を殺戮しました。だから神は、エフーは彼自身が手を下した殺戮のために罰せられる、と預言するのです。北イスラエル王国は、やがてその罪のために滅びます。スクリーンで地図を示しました。イスラエルの谷は、その最後の戦いの場所のひとつでした。黙示録では、この場所でハルマゲドンの戦いが起こると語られている地域でもあります。ここは聖書に書かれた出来事において非常に重要な場所なのです。

2番目に生まれた子供は娘でした。名前は「ノー・マーシー（憐れまぬ者）」です。聖書訳の中にはヘブライ語で「ロ・ルハマ」と呼ぶものもあります。神は、すでにホセアをとおして、北イスラエル王国をその罪のゆえに滅ぼすだろう、と言われました。しかし今、神からは滅びを押しとどめるような憐れみを受けることはないだろう、と言われるのです。ホセア書には、唐突に、時には矛盾しているようなことが、思いつくままに書かれ、まとめられています。ここで、南ユダ王国についての記述があります。6節にはこう書かれています。わたしはもう二度とイスラエルの家をあわれむことはなく、決して彼らを赦さないからだ。7 しかし、わたしはユダの家をあわれみ、、、南ユダ王国には良い王、つまり、民を神への礼拝へと導く王がまだいた。先ほど、わたしはこのように指摘しました。北イスラエル王国が神の憐れみを受けなくなる一方で、南ユダ王国は救われるのです。しかし、そうであったとしても、南ユダ王国の救いは彼ら自身の力によって成し遂げられるものではありません。神の力によってもたらされるのです。7節は続けます。彼らの神、主として、彼らを救う。ただし、弓、剣、戦い、あるいは馬、騎兵によって救うのではない。7節について議論する前に、最後の子について見てみましょう。最後の子は「わたしの民ではない」と呼ばれます。聖書訳の中にはヘブライ語で「ロ・アンミ」と呼ぶものもあります。北イスラエル王国の民は、神から拒絶されていたのです。北イスラエル王国の民は、まだ自分たちが神の民である、と信じていました。しかし実際には、創造主に対する姦淫に等しい、偽りの神々を礼拝していました。このため、彼らは神に背くようになり、神は彼らに向かって、あなたたちはもはや神の民ではないのだと理解せよ、と呼びかけていたのです。

これはかなり深刻な言葉です。神は、北イスラエル王国には憐れみを示さない、南ユダ王国には憐れみを示す、と言っているのです。そして神は、北イスラエル王国の民は御自分の民ではない、と拒絶したのです。神がわたしたちをこれほど拒絶する。わたしたちはこんなことを考えたくありません。旧約聖書の預言を礼拝説教で扱うことがあまり多くないのは、神の拒絶と直面したくないことにも理由があるのでしょう。聖書を小分けにして、特定の箇所を選んで読んで、そこに垣間見られる愛に満ちたおじいちゃんのような神様の話。わたしたちが聞きたいのはこんな話なのです。しかし、神は自らを愛としてだけでなく、聖なるものとして現わすのです。そして実際、神の唯一の属性とは何か。その神聖さであるのです。黙示録4章8節はこういいます。聖なる、聖なる、聖なる、主なる神、全能者。昔おられ、今もおられ、やがて来られる方。この黙示録の聖句は、愛なる、愛なる、愛なる神、とは言っていない。憐みある、憐みある、憐みある神、とも言っていないのです。この聖句は聖なる、聖なる、聖なる、と言っているのです。ローマ人への手紙1章18節に書かれているように、神はご自分の聖性から、わたしたちの罪に対して怒りを持たれるのです。18 というのは、不義によって真理を阻んでいる人々のあらゆる不敬虔と不義に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。北イスラエル王国の罪と、わたしたちの罪は、必ず罰せられるでしょう。北イスラエル王国が置かれている立場は、私たちが生まれながらに置かれている立場と同じなのです。わたしたちは皆、北イスラエル王国の民と同じように神に反逆しているのです。ゴメルがホセアにしたことと同じように、わたしたちは皆、自分を創造してくださった方を見捨て、基本的に、その方に対して姦淫を犯したのです。ホセアの妻ゴメルとは、わたしたちのことなのです。北イスラエル王国の民は彼らを愛してくださる方を拒んできた。それと同じように、わたしたちはわたしたちを愛してくださる方を拒んできたのです。わたしたちが本当に救いを受け入れる前に、わたしたちが本当にホセア書全体に書かれている神の不変の愛を受け入れる前に、神がわたしたちを見ておられるように自分自身を見なければなりません。わたしたちは、ホセアに対するゴメルなのです。そして、このホセアはイエス・キリストを表しているのです。罪人であるということ。これは社会が決めたからではありません。単に犯罪に手を染めたからでもありません。神に反逆するから罪人であるのです。聖書は、わた

私たち全員が生まれながらにして罪人であるのだ、と教えています。ローマ人への手紙 3 章 23 節は言います。23 **すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、**イスラエルが神に反逆したことだけではありません。わたしたちを創造された神に対して、わたしたちが反逆しています。この聖句は、わたしたちの本当の姿を描写しているのです。あなたの罪も、そして、わたしの罪も、聖なる神に対して酷い侮辱を与えています。わたしたちは当然のことながら、"憐れまない"と示されます。わたしたちは、神に対するわたしたちの反抗的な行動と態度に対して、神の怒りを受けて、永遠に神に拒絶されるに値するのです。

しかし皆さん。ホセア書は、背信の民への神の不変の愛について書かれていることを思い起こして下さい。ホセアの妻ゴメルが、ホセアに対して不貞をはたらいたように、わたしたちは皆、神に対して背信の民なのです。そしてホセア書では、確かに神の怒りと裁きが物語の結論のようです。しかし、ホセアとゴメルの物語は、贖いの物語です。ホセア書は最終的には神の愛を描いているのです。10 節から 2 章 1 節を読むと、贖いが暗示されています。10 **イスラエルの子らの数は、量ることも数えることもできない海の砂のようになる。「あなたがたはわたしの民ではない」と言われたその場所で、彼らは「生ける神の子ら」と言われる。**11 **ユダの人々とイスラエルの人々は一つに集められ、一人のかしらを立ててその地から上って来る。まことに、イスラエルの日は大いなるものとなる。**2 章 1 **言え。あなたがたの兄弟には、「わたしの民」と。あなたがたの姉妹には、「あわれまれる者」と。**この最後の節には 3 つの約束があります。この約束は神の憐みの約束です。神が「憐れまない」と約束した罪深い背信の民に向かって憐れもうとしているのです。第一の約束は、彼らの数は測り知れないほどに増える、ということです。北イスラエル王国は国家としては消滅したかもしれませんが、このイスラエルとは、初代教会から過去 2 世紀にわたって教会に存在する神の民のことを指しています。これは数えることができないほどの数字です。第二の約束は、神の子とされる、ということです。"あなたがたはわたしの民ではない"しかし"生ける神の子ら"となるのです。わたしたちがイエス・キリストを救い主として信じる。すると、神の民は人間国家以上のものとされます。わたしたちは息子や娘としての養子縁組によって神の家族の一員とされるのです。ヨハネの福音書 1 章 12 節は言います。12 **しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。**最後に、第三の約束とは、本来の神の民が北イスラエル王国と南ユダ王国という二つの国に分裂したことに対して、11 節にあるように、彼らは「一人のかしら」、すなわち一人の王のもとに一つになる、ということなのです！イスラエル民族が待ち望んでいた王、そして、わたしたちも待ち望んでいる王が再臨します。すると、ユダヤ人も異邦人も神の民すべてがその下に一つになる、ということなのです。その王の名はイエス・キリストです！わたしたちは神の裁きに値します。しかし、イエス・キリストのおかげで、わたしたちは神の憐れみを知ることができるのです。わたしたちは神から罪に対する怒りを受けるべきです。しかし、その代わりに、イエス・キリストのおかげで、神から赦しを経験することができるのです。来週は、預言者ホセアをとおして、イエス・キリストによる贖いの姿をもっと詳しく見ていきます。今日、イエス・キリストがいなければ、あなたはゴメルやイスラエルの民の立場にいます。あなたを愛し、イエス・キリストをとおして、あなたに神の愛と赦しを経験することを望んでおられる創造主に、あなたは反逆し、不誠実な人生を送っているのです。祈りましょう。

Hosea 1:1-2:1 The Picture of Rebellion

Today, we are going to start the book of Hosea. It's the first time we are going through a book of prophecy since I have been here at YIBC, and I am really excited to preach through this Old Testament book of prophecy. Now, I think as we start this book, it is worth thinking about why studying these prophetic books is important. Some people may think, what could a prophet speaking to the nations of Israel and Judah before the coming of Jesus Christ possibly have anything applicable to say to Christians and the church today? In order to see the importance of these books for the church, there are a couple of key characteristics about prophecy that make it applicable to us today. The first is that there are multiple horizons of fulfillment in prophecy. What does that mean? It means that there are near fulfillments that take place, such as the fall of Israel and Judah to the Assyrians and the Babylonians. There are further but still past fulfillments that are in most of the books of prophecy that are prophesying the coming of Jesus Christ and even his death and resurrection. Then there are future fulfillment of prophecy that will not happen until Christ's return. We live between those two events, Christ's death and resurrection and his return, in the same way the people of Israel lived before the birth of Christ, looking forward to the coming of the Savior, the Messiah. So, there is application for the church today as the people of God in a similar way that there was application to the people of God in the Old Testament. They looked to the coming of Christ, we look to the second coming of Jesus Christ.

There is also an importance to the type of language used in Prophetic literature. There is a lot of highly descriptive poetic language used, which in one sense makes it difficult to understand, but also beautiful to actually read and consider. While the New Testament gives us theological truths in very detailed letters like Romans, Prophecy gives us those same truths about God in language from God himself that shows his heart behind those truths. In a way, you can think about these books of prophecy as love letters to his people to try to woo these people back to himself. This is especially evident in the book that we are studying, Hosea. The theme of this book is the seriousness of Israel's sin and the certain punishment if the people did not repent. The people of Israel had for the most part rejected the true worship of God and were unfaithful to the one who had delivered them from Egypt and given them their land. But instead of just destroying these unfaithful people, God pleaded with them through Hosea and other prophets to turn back to God in repentance. This is due to his unending love for his people. This steadfast, unending love is a key term in the Old Testament, the Hebrew word **HESED** that appears 6 times here in Hosea at key points. From these themes, I have stated the theme of this series as **"Unending love to unfaithful people."**

With that, let's start with verse **1 of Hosea, chapter 1. The word of the Lord that came to Hosea, the son of Beer, in the days of Uzziah, Jotham, Ahaz, and Hezekiah, kings of Judah, and in the days of Jeroboam the son of Joash, king of Israel.** We are introduced to Hosea without a lot of background. The only thing we really know about Hosea is that his father is named Beer, and then what we see and hear of him in this book. There is disagreement about exactly how long Hosea's ministry extended, but there is general agreement that his period of prophecy was a long one that extended from at least 753 to 715 BC. We know generally the time he was prophesying based on the kings that are listed in this first verse telling us when these prophecies were given by God. Remember, the kingdom of Israel had started under King Saul, but the kingdom was taken from him and given to David. From David's descendants would ultimately come Jesus, the perfect king pictured by David and other godly kings. But the united kingdom and nation of Israel only lasted through David's son, Solomon. After him, the nation of Israel was divided into the southern kingdom of

Judah, made up of only the Jewish tribes of Judah and Benjamin and the northern kingdom of Israel made up of all the rest of the tribes of Israel.

Judah had some Godly kings who led the people of the land to worship the true God in the temple in Jerusalem built by Solomon, but Israel never had a single king who obeyed God and led the nation to worship the true God. And it was during the end of Hosea's time of prophesying that the nation of Israel fell around 720BC to the Assyrian Empire. The nation of Judah would continue to exist until it fell to the Babylonian Empire in 586BC. You can see a list of all the kings of Israel and Judah on the screen, although I know it is too small. The next slide breaks out just the kings from that list that Hosea prophesied during their reigns. There are 6 more kings that cover an additional 30 years in Israel that are not mentioned other than King Jeroboam 2nd of Israel. Why all the kings are not listed for Israel and the ones for Judah are is not entirely clear. Possibly because the kings of Israel represented the sin of the people as they had led the people in their rebellion against God. Also, the prophecies were primarily against Israel, although Judah is included in the prophecies of judgment at various points as well. Either way, this information about the kings gives context of what was happening in the country at the time. And while Judah had some good kings, including Uzziah, Jotham and Hezekiah listed here, for the most part, the people had given themselves to idol worship in both of these nations. Through the prophet Hosea, God tells the people what their sin is like in his eyes.

Starting in verse 2, God speaks in graphic terms to describe the situation. **2 When the Lord first spoke through Hosea, the Lord said to Hosea, "Go, take to yourself a wife of whoredom and have children of whoredom, for the land commits great whoredom by forsaking the Lord."** **3 So he went and took Gomer, the daughter of Diblaim, and she conceived and bore him a son.** Let's be clear, this language that God uses here is not considered polite language. All of us would tell our children not to talk this way, but God himself is using it because the sin of the people is so terrible in his sight. Instead of just beginning his prophecy by giving Hosea words to say, God wants Hosea to paint a picture for them in his own marriage and family of just how bad the people's rebellion is to our holy God. Through the language that is used, there seems to be an indication that the children born may not actually be Hosea's children because of Gomer's actions. Let's continue reading at verse 4 as we learn about the rest of the children that are born to Gomer. **4 And the Lord said to him, "Call his name Jezreel, for in just a little while I will punish the house of Jehu for the blood of Jezreel, and I will put an end to the kingdom of the house of Israel. 5 And on that day I will break the bow of Israel in the Valley of Jezreel." // 6 She conceived again and bore a daughter. And the Lord said to him, "Call her name No Mercy, for I will no more have mercy on the house of Israel, to forgive them at all. 7 But I will have mercy on the house of Judah, and I will save them by the Lord their God. I will not save them by bow or by sword or by war or by horses or by horsemen." // 8 When she had weaned No Mercy, she conceived and bore a son. 9 And the Lord said, "Call his name Not My People, for you are not my people, and I am not your God."**

These are crazy names for kids! I'm sure that no parent in here or kid in here wants to name or be named any of these! But there is a point God is making in this process. To start with, these are likely not Hosea's biological children. While it is not likely that God told Hosea to outright marry a prostitute, as some have interpreted, what seems to be happening is that he knew from the beginning of the marriage that she would be unfaithful, and that these children that were born were not going to be his biological children. However, he claimed them as his own, and named them as God directed. Each child's name showed a different aspect of God's state of mind towards his people who were living in rebellion towards him.

The first son born was Jezreel. This name was a direct prophecy against King Jehu, but expanded to the nation of Israel. We do not have time to look at it this morning, but in the book of 2Kings chapter 9 and 10, we read about how Jehu came to the throne. He killed king Joram who was the grandson of king Ahab, the worst king in God's eyes who ever ruled. God used Jehu to destroy Ahab's family and completely end his line. God even commended him for that obedience. But, he went further than that and slaughtered far more people than just the immediate family of Ahab. And so God is prophesying here that he would be punished for that. Also, the entire nation of Israel would eventually fall because their sin, and the place of one of the final battles was the Valley of Jezreel which you can see on the map on the screen. This is also the area that Revelation talks about the battle of Armageddon taking place, so it is extremely important in Biblical events.

The second child born is a daughter, and her name is No Mercy. Some versions give the Hebrew name, Lo-Ruhama. God has already said through Hosea that he will be destroying the nation of Israel for their sin, but now he says they will not be recipients of his mercy that would hold back the destruction. This book is full of abrupt, sometimes what seem to be contradictory statements, that are put together in immediate thoughts. Here we see one with this statement about Judah. Verse 6 says, **for I will no more have mercy on the house of Israel, to forgive them at all. 7 But I will have mercy on the house of Judah**... I pointed out earlier that Judah still had good kings who led the people to worship God, so while Israel would no longer receive God's mercy, Judah would be saved. But even then their salvation would not come through their own strength, but God's power. Verse 7 continues... **and I will save them by the Lord their God. I will not save them by bow or by sword or by war or by horses or by horsemen.** But let's look at the final child before we see what the significance of this is. The final son is called Not My People. Again some versions give the Hebrew name, Lo-Ammi. The people of Israel were being rejected by God. They still believed they were God's people, but in reality, their worshipping of false gods, which amounted to adultery against their Creator, had set them against God and he was calling them to see that they were no longer His people.

Now these are pretty serious words. God is saying I will not show mercy to Israel, and I will show mercy to Judah. And he has rejected them as His people. The reason you don't hear more sermons on Old Testament prophecy sometimes is because we don't like to think about God in this way. We like the loving Grandpa of a God who we see only if we selectively read the Bible in small pieces and particular verses. But God reveals himself not only as love, but as holy. And in fact the only attribute of God that Heavenly beings are ever said to repeat over and over about God is his holiness. In **Revelation 4:8, they say, "Holy, holy, holy, is the Lord God Almighty, who was and is and is to come!"** They don't say love, love, love or mercy, mercy. Mercy. They say, holy, holy, holy. And out of his holiness comes his wrath against our sin, which we see in **Romans 1:18. 18 For the wrath of God is revealed from heaven against all ungodliness and unrighteousness of men, who by their unrighteousness suppress the truth.** The nation of Israel's sin and our sin will not go unpunished. The same position that Israel finds itself in here is the same position we are all born in. We are all in rebellion to God just like the Israelites. We have all forsaken the one who created us, basically committed adultery against him, in the same way that Gomer did to Hosea. We are Gomer. We have rejected the one who loves us, just as the people of Israel did. Before we can truly accept salvation, and the unfailing love, that is written all over the pages of this book, we have to see ourselves as God sees us. We are the Gomer to Hosea, who represents Jesus Christ. To be a sinner is not a condition that society determines or simply to commit a criminal offense, but it is to be in rebellion to God. The Bible tells us that all of us are naturally in that state. **Romans 3:23 says, 23 for all have sinned and fall short of the**

glory of God. This is the true picture of not just Israel's rebellion that is being painted, but our rebellion to the God who created us. Your sin and my sin is a terrible offense to a holy God, and we rightfully deserve to be shown "No Mercy" and be rejected by God for all of eternity under God's wrath for our rebellious actions and attitudes.

But remember, this book is about God's unfailing love to unfaithful people. All of us are the unfaithful people who treat God like Hosea's unfaithful wife Gomer treated Hosea. And it sure sounds like God's wrath and judgement is the end of the story. But the story of Hosea and Gomer is a story of redemption and a finally a picture of God's love. Redemption is coming, and it is hinted at in verses 10 through chapter 2, verse 1. **10 Yet the number of the children of Israel shall be like the sand of the sea, which cannot be measured or numbered. And in the place where it was said to them, "You are not my people," it shall be said to them, "Children of the living God."**¹¹ **And the children of Judah and the children of Israel shall be gathered together, and they shall appoint for themselves one head. And they shall go up from the land, for great shall be the day of Jezreel. Say to your brothers, "You are my people," and to your sisters, "You have received mercy."** There are three promises in these final verses that demonstrate the mercy that God intends to show to these sinful unfaithful people that he promised "no mercy" towards. First their number will increase to a number that cannot be measured. While the nation of Israel may have ceased to exist as a nation, this is pointing to the people of God who exist not only in the nation of Israel, but now in the church for the past 2 centuries. That is a number that cannot be measured. Secondly, there is adoption. **"You are not my people"** but you will become **"Children of the living God."** In Jesus Christ, the people of God are made more than a human nation, they are made part of the family of God through adoption as sons and daughters. **John 1:12 says, 12 But to all who did receive him, who believed in his name, he gave the right to become children of God...** Finally, whereas the original people of God are divided into two nations, Israel and Judah, they will be united under **"one head"** as verse 11 says, one king! You see there is a coming king that they looked forward to, and whose return we look forward to that all of the people of God both Jew and gentile are united under. His name is Jesus Christ! And because of Jesus Christ, we who deserve God's judgement can know the mercy of God. We can experience forgiveness instead of wrath against our sin. Next week, we will look more closely at this picture of redemption through Jesus Christ that we see in the prophet Hosea. But without Jesus Christ today, you are in the place of Gomer and the people of Israel. You are in rebellion and living a life of unfaithfulness to your creator, who loves you and desires for you to experience his love and forgiveness through Jesus Christ. Let's pray.